

静岡地区講習会報告

第1回地区講習会

- ① 日時 令和7年 4月24日(木) 13:30~16:10
- ② 場所 沼津市第五地区センター
- ③ 講習内容 基礎講座

・講話「通級指導教室・静言研について」

富士市立岩松小学校 四條とも子 先生

通級指導教室については、指導要領に書かれている内容の説明や通級担当者としての役割についての話があった。静言研については、目的や主な活動について話があった。参加者からは、「静言研について知ることができた。」「通級とは何かと改めて考える機会になった。」などの意見が多かった。

・教室種別分科会（教室紹介・実践発表・グループワーク）

言語通級 沼津市立愛鷹小学校 山越美希 先生

発達通級 沼津市立大岡小学校 山本莉菜子 先生

言語通級、発達通級に分かれて分科会を行った。それぞれ教室の紹介や実践発表、教材の紹介などを行った後、グループワークを行った。グループワークは経験年数が多様になるように分け、初めて担当になった先生が経験のある先生から話を聞けるようにした。グループワークの内容は自由にしたので、指導の悩みを共有したり教材や指導についての情報交換をしたりした。参加者からは、一年目で戸惑うことばかりだが、アドバイスや実践を教えてもらい、今後の指導の参考になった。色々な経験年数や他地区の方たちとの意見交換は有意義だったなどの声が聞かれた。

第2回地区講習会

- ① 日時 令和7年6月19日(木) 13:30~16:00
- ② 方法 オンラインにて実施
- ③ 講習内容

講演 「子どもの言語・構音の見かた—評価・目標設定・指導計画—」

講演者 伊東市幼児ことばの教室 言語聴覚士 清水利充 先生

<講演内容と感想>

通級指導教室を利用する子どもたちの現れ（困り感）の原因は多様である。評価が8割、確かな指導方針を立てるためには、確かなアセスメントをすることが重要である。これが清水先生のご講話の軸であった。

障害別に事例を挙げ、実際の指導の様子や子どもの音声等を提示しながら

ら、詳しく説明していただいた。個々の現れ（困り感）の原因がどこにあるのかを見極めて正しく評価し、適切な目標を立て、適切に支援（指導）することの重要性を改めて感じる良い機会となった。

第3回地区講習会

- ① 日時 令和7年8月21日（木） 14:00～16:00
- ② 場所 開国下田みなと
- ③ 方法 対面式、または、オンライン受講形式
- ④ 講習内容 講演「子どもたちのためのアセスメントⅡ」
～知能/発達検査の理論と結果を支援に活かす～
講演者 山梨大学 永田真吾 准教授

<講演内容と感想>

当日はオンラインのトラブルが多々あったが、永田先生に丁寧に対応していただけた。内容的には「認知処理の自己チェック」を実際に行い、自分がどのような認知処理パターンなのかを体験し、長所活用型の指導が有効だということと具体的な事例を通して学ぶことができた。

子どもの実態を把握し、その子の長所を活かす学びの方法を考えるという点につき、非常に感銘を受けた。そのためにも、アセスメントを取るための検査を、自分自身がしっかり理解していくことが大切だということを感じた。具体的な子どもたちの例と併せてお話をしてくださったことで、より具体的で分かりやすいお話だった。」などの感想が聞かれた。

第4回地区講習会

- ①日時 令和7年8月22日（金） 10:00～16:30
- ②場所 伊豆市生きいきプラザ
- ③講習内容 講演「社会的自立を見据えた発達支援」
講演者 伊豆市医療福祉センター 小児精神保健科 藤山 恵 先生

<講演内容と感想>

今回の研修では、小児科医である藤山先生より、「社会的自立を見据えた発達支援」をテーマに、医療の立場から子どもの発達を長期的に捉える視点についてお話を伺った。伊豆地域における診療の流れや初診までの待機期間、診察時の具体的な声かけなどが紹介され、医療がどのような考えのもとで子どもや保護者と関わっているのかを知ることができた。通級指導に携わる立場として、日頃関わっている子どもたちの背景に、こうした医療の視点があることを理解できた

ことは、大きな学びであった。

講演内容を通して特に印象に残ったのは、「幼児・小学生・中学生といった発達段階の枠にとらわれず、一人の子を育てているという視点で支援を考えること」や、「目の前の適応改善だけでなく、将来の社会的自立を見据えて関わること」の重要性である。通級指導では、学習面や行動面の困り感に対して個別に支援を行うが、どうしても短期間での変化や成果を意識してしまうことがある。医療の立場から示された、18～20歳頃までを見通した関わりや、現状維持も成長の一過程として捉える考え方は、通級指導の在り方を見直す大きな視点となった。今の支援がすぐに結果として表れなくても、その積み重ねが将来につながる可能性があることと捉えることの大切さを、改めて考えさせられた。

これらの話を踏まえ、通級指導においても、目の前の困り感への対応にとどまらず、子どもの育ちを長い目で捉える視点をもつことの重要性を再認識した。学年や年度で支援が区切られやすい学校現場において、通級指導は比較的継続して子どもや保護者と関われる立場にある。その役割を意識しながら、今後も子ども一人一人のペースを大切に、社会的自立を見据えた支援を丁寧に積み重ねていきたい。

第5回地区講習会

- ① 日時 令和7年9月12日（金） 午後1時50分～午後4時30分
- ② 場所 裾野市生涯学習センター
- ③ 講習内容 講演「得意なところを伸ばし、苦手なところを補いましょう
—神経心理学から見た発達障害—」

講演者 児童発達支援センター「エンジョイ ウェルヴィレッジセンター長
浜松学院大学 STEAM 教育研究所外部研究員（元短期大学部 教授）
志村浩二（臨床心理士・公認心理師）

<講演内容と感想>

1 講演内容



（1）「嗜癖行動学」について

専門は「嗜癖行動学」。なかなか馴染みのない学問だと思うが、「依存症」に関する研究をしている。

（2）失認症について

失認症とは、物事を認知できない状態である。例えば、目の前にある「ボール」が「見えない（分からない）＝『ボール』というものが認知できなく、目の前のどこにあるのか分からない」が、ボールが投げられると、それを避けることはできる状態のこと。

これは、「ボール」という物は「認知」できないが、「自分に向けて（ボールが）投げられた。」ということは認知できていることになる。この「失認症」の中でも「軽い統合型失認症」が、最近増えているようだ。LDは、失認症の表れの一つ。

（３）実行機能障害について

目や耳から得られた情報は「行動プログラム」と「状況プログラム」として脳内を伝わり、前頭葉で統合される。しかし、自閉症スペクトラム傾向があると、状況プログラムがうまく処理されなくなり、実行機能障害になる。この「状況プログラム」のサポートは、「視覚化」「順序立て」「具体的」がポイントになる。

（４）脳の左右連携の拙劣さについて

言葉で聞いた情報は「左脳」で処理するが、それを具体的な視覚イメージにするのは「右脳」となる。この連携がスムーズでないと、意味を理解するのが難しくなり、場の状況がつかめなかったり、場に応じない言動になってしまったりする。

（５）統合機能を高めるために

ひとつの動作の中に、意図的に「見る、聞く、書く、読む等」を取り入れる。

例えば、「聞きながら書く」「一緒に読む」「話を聞くときにうなずく」等である。実際には支援者側が「残存機能の活用と代替機能の獲得」を頭に描いておくことよい。

また、身体図式は4, 5歳で認知できるが、最近それが十分育っていない子供が増えているようだ。そういった子が「発達性運動機能障害（DCD）」と診断されるケースが増えている。スマホ等の生活環境の変化が影響しているのかもしれない。



２ 感想

・先生の語り口に引き込まれ、あっという間の研修でした。実行機能が低い人の表れは、大人と子どもとは異なる、という点が勉強になりました。また、支援の大原則、言語支援と即時強化は、今日から実践しようと思いました。子どもが困っているときの背景と支援の仕方が、とても分かりやすく、今後の指導に生かしていきたいと強く思いました。また、愛着のお話も是非伺ってみたいです。ありがとうございました。

・嗜癖行動学から始まり、神経心理学の見地から実行機能やワーキングメモリー、視知覚認知、身体図式などを、実演を通して分かりやすくお話していただき、とても勉強になりました。自分の担当している子の表れと重なる部分もあり、そうなのか、脳の機能の問題だったのか、困っていたんだろうな、と感じました。得意なところを伸ばし、そこを活用することで苦手な部分を補っていけるよう、支援方法を考えていきたいと思いました。

・嗜癖行動学というものを初めて知りました。その中で、欲求不満が依存症を生み出すということ、が心に響きました。注意していきたいと思います。さて、神経心理学については、多少かじってきましたが、実際に演技を行いながら分かりやすく教えていただき、あっという間の講演会でした。一つ挙げると、①言語支援②即時強化で、「よっしゃ〜」という言葉、動作、言葉の支援がお気に入りでした。脳の左右連携も納得のいく話ばかりでした。学習障害のグレーゾーンのお子さんで、統合型失認症がある場合、全体が分かるけれど部分が分からないこの話も大変興味深いものでした。今後も生きにくさを感じている子のために、尽力していきたく強く感じました。本当にありがとうございました

第6回地区講習会

① 日時 令和7年10月23日(木) 13:10~16:10

② 場所 富士市教育プラザ

③ 講習内容 講演 テーマ 構音の基礎と指導の実際

内容 構音とは

構音障害へのアプローチ 特に側音化構音への対処法

講演者 言語聴覚士 北野市子 先生

<感想>

構音指導と発音指導の違いを認識することができた。構音検査の表の見方やそこから何がどう違って誤り音になるのかを図や映像を使って、分かりやすく教えていただいた。すぐに指導に活かせる内容ばかりでとても参考になった。また自分の日頃の指導を考えるよい機会となった。